

**Technology to Inspire Innovation**

# **2019年度決算説明会**

**2020年4月24日**

**6807 日本航空電子工業株式会社**

**I. 2019年度通期業績**

**II. 2020年度業績見通し**

# I . 2019年度通期業績

## (2019年4月～2020年3月)

※ 本資料では、原則として金額は億円単位に四捨五入しておりますので、個別数値と合計値・増減額が一致しない場合があります。

億円	2018年度			2019年度			前年比		2019年10月 予想値
	上期	下期		上期	下期				
<b>売上高</b>	<b>1,180</b>	<b>1,042</b>	<b>2,221</b>	<b>1,008</b>	<b>1,073</b>	<b>2,081</b>	<b>-140</b>	94%	<b>2,030</b>
<b>営業利益</b>	<b>94</b>	<b>79</b>	<b>173</b>	<b>72</b>	<b>70</b>	<b>142</b>	<b>-32</b>	82%	<b>145</b>
対売上比	7.9%	7.6%	7.8%	7.1%	6.5%	6.8%			
<b>経常利益</b>	<b>106</b>	<b>74</b>	<b>180</b>	<b>74</b>	<b>70</b>	<b>144</b>	<b>-37</b>	80%	<b>140</b>
対売上比	9.0%	7.1%	8.1%	7.3%	6.5%	6.9%			
<b>純利益</b>	<b>77</b>	<b>58</b>	<b>135</b>	<b>59</b>	<b>53</b>	<b>111</b>	<b>-24</b>	82%	<b>105</b>
対売上比	6.5%	5.6%	6.1%	5.8%	4.9%	5.4%			
<b>為替レート (円/US\$)</b>	<b>110.3</b>	<b>111.6</b>	<b>110.9</b>	<b>108.6</b>	<b>108.8</b>	<b>108.7</b>	<b>(期中平均)</b>		
<b>配当 (円)</b>	<b>15.0</b>	<b>20.0</b>	<b>35.0</b>	<b>20.0</b>	<b>20.0</b>	<b>40.0</b>			

億円	2018年度			2019年度				2019年10月 予想値
	上期	下期		上期	下期	前年比		
携帯機器	582	466	1,049	477	525	1,001	95%	940
自動車	369	360	729	343	361	704	97%	700
産機・インフラ	171	153	324	137	129	267	82%	280
その他	57	63	120	51	58	109	91%	110
計	1,180	1,042	2,221	1,008	1,073	2,081	94%	2,030

# 業績概要 [セグメント別]

(億円)		2018年度			2019年度			前年比		2019年10月 予想値
		上期	下期		上期	下期				
コネクタ	売上高	1,062	917	1,979	891	945	1,836	-143	93%	1,765
	セグメント利益	105.7	87.3	193.0	85.0	88.9	173.9	-19.2	90%	-
	対売上比	10.0%	9.5%	9.8%	9.5%	9.4%	9.5%			
UIS	売上高	43	38	81	39	51	90	8	110%	95
	セグメント利益	3.4	1.0	4.4	-1.9	-2.5	-4.4	-8.8	-	-
	対売上比	8.0%	2.5%	5.4%	-5.0%	-4.8%	-4.9%			
航機	売上高	70	82	152	75	73	149	-4	97%	160
	セグメント利益	7.0	11.4	18.3	10.2	3.9	14.1	-4.2	77%	-
	対売上比	10.0%	13.8%	12.0%	13.6%	5.3%	9.5%			
その他 配賦不能	売上高	4	4	8	4	3	7	-1	83%	10
	セグメント利益	-22.6	-20.2	-42.7	-21.6	-20.5	-42.1	0.6	99%	-
全社	売上高	1,180	1,042	2,221	1,008	1,073	2,081	-140	94%	2,030
	営業利益	93.6	79.5	173.0	71.7	69.8	141.5	-31.5	82%	145
	対売上比	7.9%	7.6%	7.8%	7.1%	6.5%	6.8%			

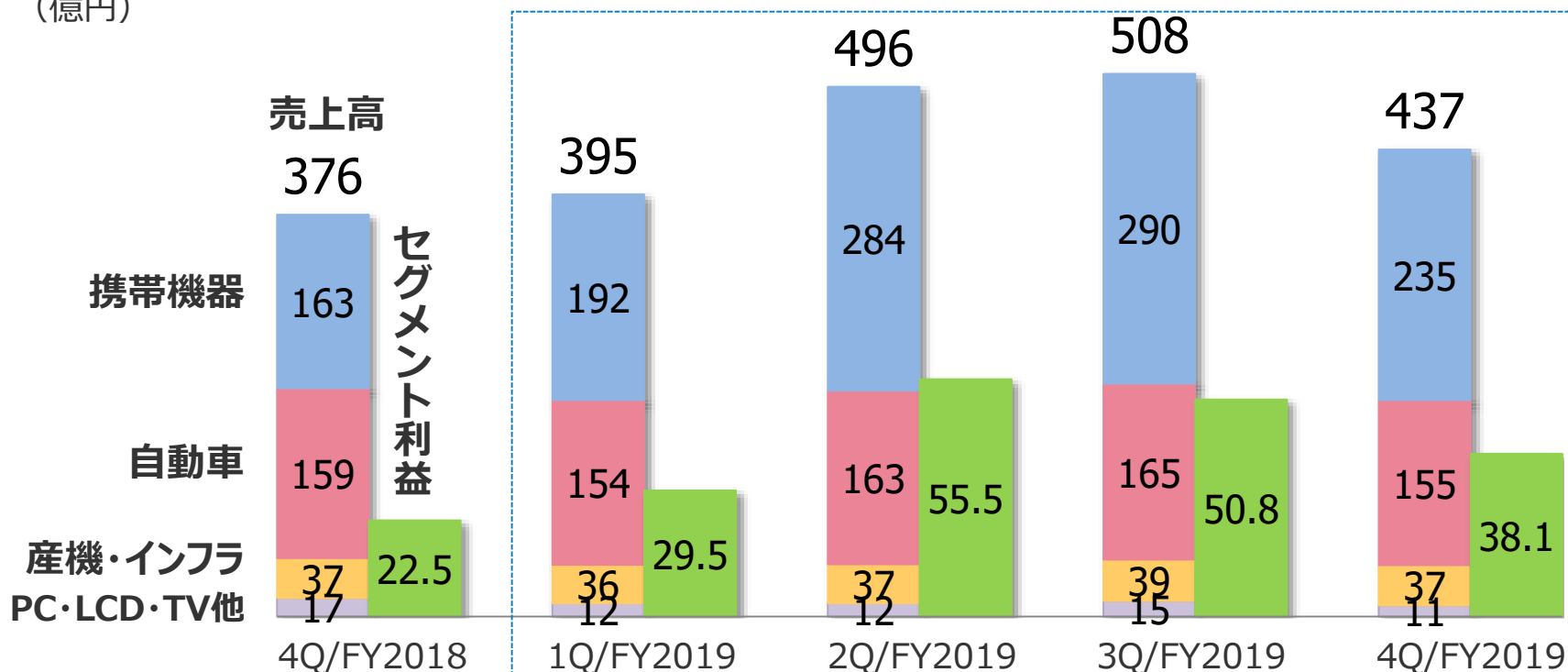
# コネクタ事業 [四半期 売上・利益推移]

- ▶ **携帯機器** 中国スマートフォン向けの好調、北米向けの立上りにより、3Qまでは高水準が続いたものの、4Qは季節性および感染症影響で需要減
- ▶ **自動車** 世界的な自動車販売の不振により停滞が継続
- ▶ **産機・インフラ** 国内外最終需要の低迷から回復に遅れ

市場別売上高・セグメント利益

新型コロナウイルス影響  
売上高 約▲26億円

(億円)

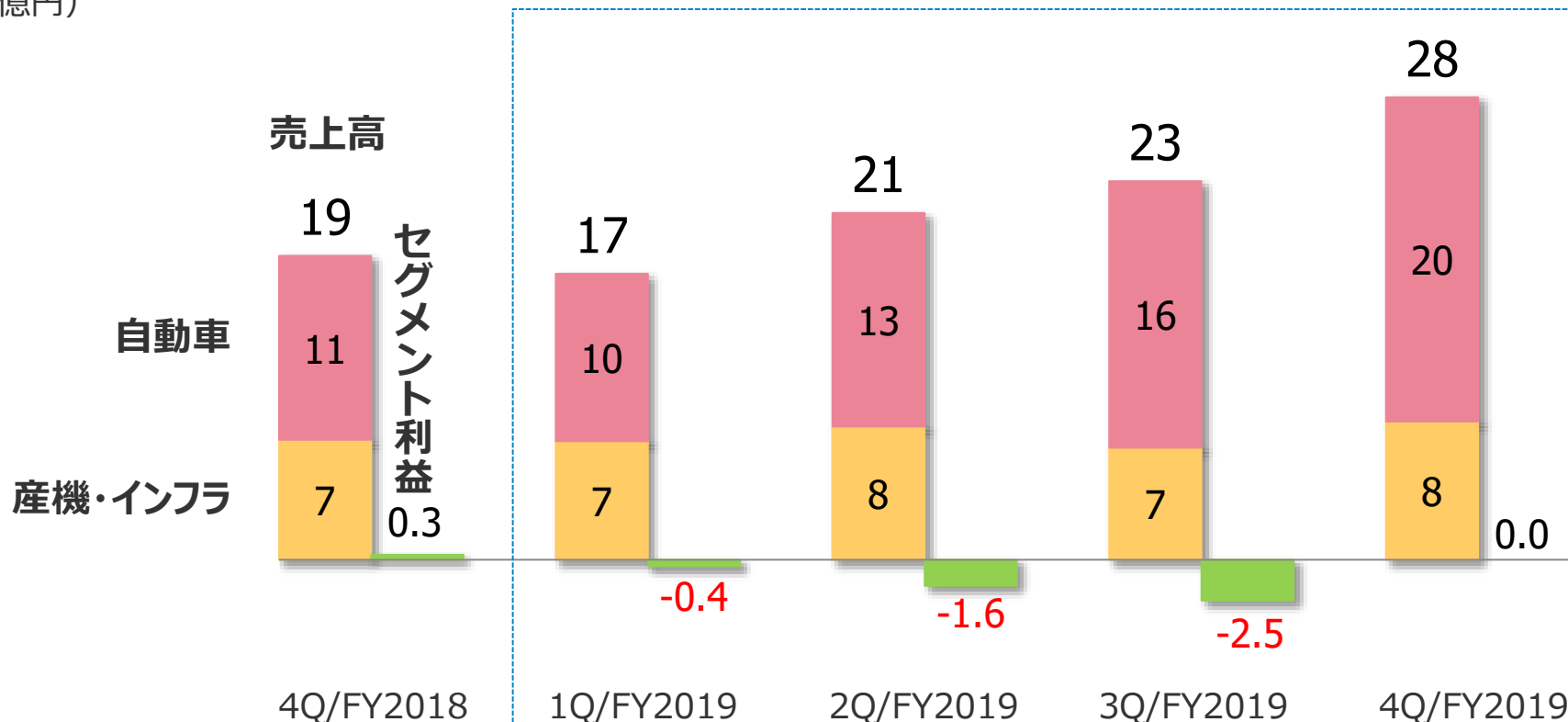


- ▶ 自動車 車載タッチセンサ新製品（フィルムセンサ）の生産が徐々に立上り、年度後半に向けて売上増加
- ▶ 産機・インフラ 需要低迷が継続し、年度内はほぼ横ばいで推移

市場別売上高・セグメント利益

新型コロナウイルス影響  
売上高 約▲1億円

(億円)



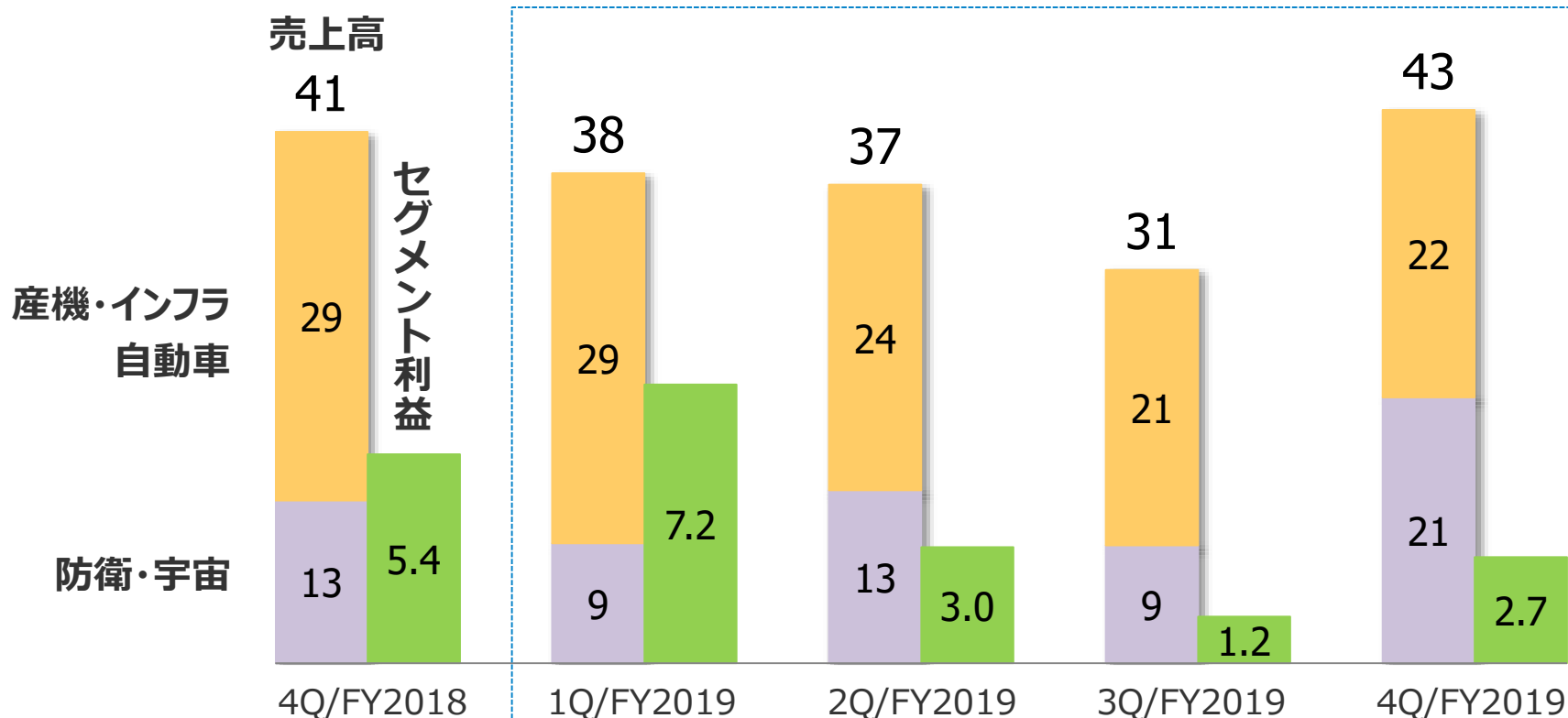


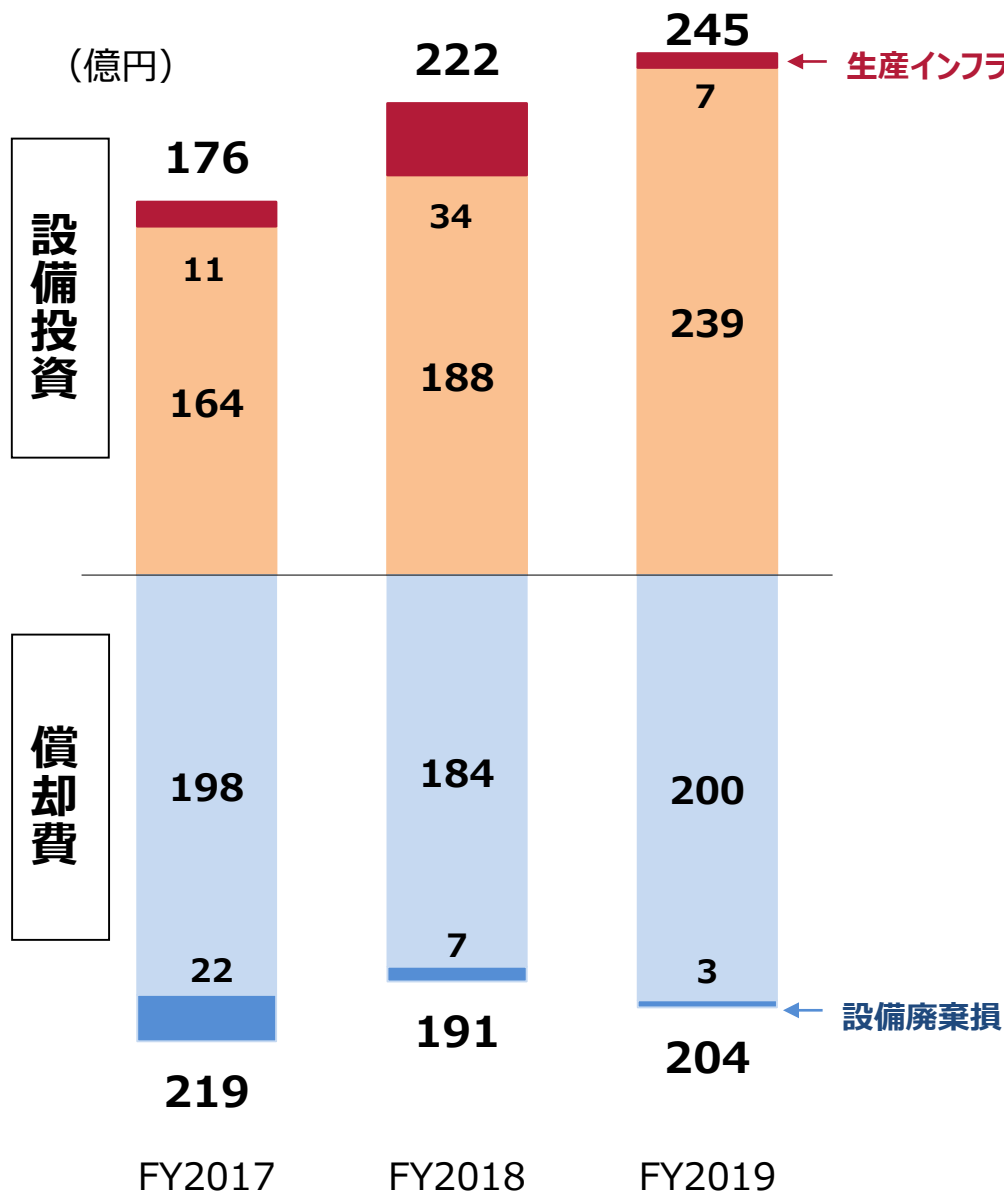
- ▶ 産機・インフラ 原油価格の下落により油田掘削向けセンサの需要が減少  
半導体製造装置向け（リニアモータ等）は底打ちしたものの、  
本格回復には至らず

(億円)

市場別売上高・セグメント利益

新型コロナウイルス影響  
売上高 約▲1億円





## 投資増加内訳

- 5Gを契機としたスマートフォン需要の増加に対する設備増強
  - 基板対基板コネクタ
- 自動車向け新製品対応
  - 欧州標準対応エアバッグ用コネクタ
  - EV向け大電流コネクタ
  - 車載タッチパネル増産対応 (フィルムセンサ)
- 産機・インフラ向け新製品対応
  - FA工作機械内装用基板対基板コネクタ

## Ⅱ. 2020年度業績見通し

## ▶ 市場別動向

### ● 携帯機器/ICT機器

- 新製品向けの立上りにより1Q後半から2Qにかけての回復を想定も、消費の見通しは不透明
- 顧客の海外操業再開（インドなど）や新モデル生産後ろ倒しがリスク
- 世界的な在宅・巣ごもり化によりPC・タブレット・ゲームは想定以上

### ● 自動車

- 顧客生産再開のため足元では中国など一部の地域で需要があるものの、6月以降の所要は不透明

### ● 産機・インフラ

- 一部の機器（半導体関連）や地域（中国）で需要回復の兆しはあるものの、全体の回復は見通せず

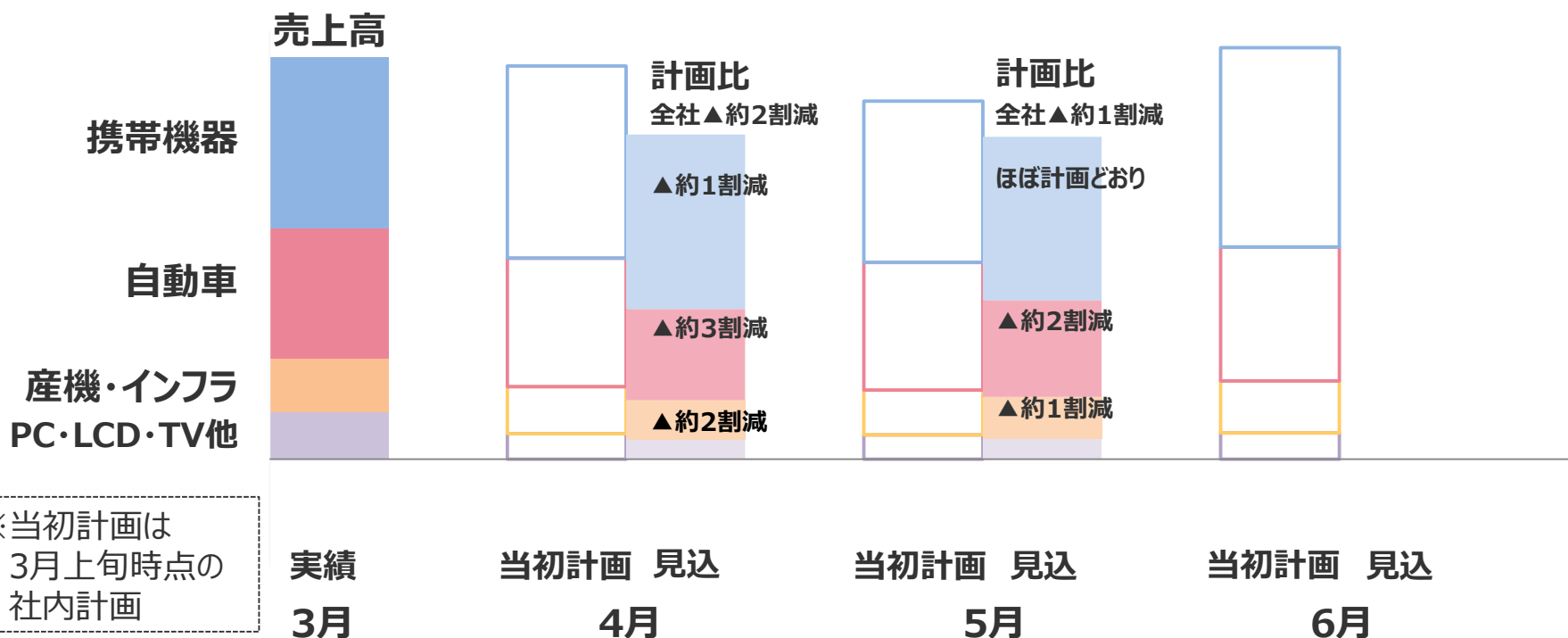
## ▶ 当社グループの操業状況（4月24日時点）

- JAEフィリピン：3月17日より操業停止  
隔離措置を遵守しながら限定的に操業再開
  - 現在平常時の約2割の人員で操業中
  - 隔離措置の実施期限は4月30日
- JAEティファナ：非常事態宣言により4月14日より操業を停止
  - 不可欠な活動以外の操業停止期限は5月末まで延長（当初の期限：4月30日）
- 上記2拠点の生產品目（主に自動車向けコネクタ/ハーネス）に関して、国内および他の海外拠点で代替生産を進めるが、必要最低限の供給にとどまる

- ▶ **新型コロナウイルスの感染拡大にともない、**
  - ・ **当社グループ海外生産拠点への操業規制**
  - ・ **顧客企業の生産縮小・停止**
  - ・ **各市場における最終消費の低迷****などにより当社業績に多大な影響が予想されます**
  
- ▶ **現時点では、上記影響の規模・継続期間の見通しが困難なため、通期業績予想については「未定」とさせていただきます**
  
- ▶ **新型コロナウイルスの影響を慎重に見極め、通期見通しが明らかになった時点で速やかに公表いたします**

## 当社の操業再開時期や、顧客・最終需要の判断が難しく、6月以降の見通しは不透明

- ▶ **携帯機器** 顧客の操業再開や新製品向けの立上り時期の予測が困難
- ▶ **自動車** 顧客中国工場の操業再開にともない直近の所要はあるものの、最終消費動向とのギャップあり。当社拠点の操業再開が不透明
- ▶ **産機・インフラ** 一部の機器や、地域での回復はあるものの、予断を許さない状況



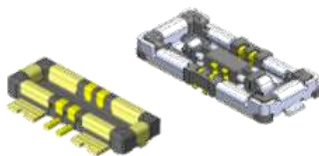
## 5Gによる事業機会の獲得

### スマートフォン

- ▶ 中国スマホ向けシェアアップにより、19年度 中国スマホ向け売上前年比124%
- ▶ 高機能化・5G化により内装用コネクタの需要拡大が見込まれるため、19年度に生産設備能力を増強。引き続きシェア増を狙う
- ▶ 内装用基板対基板コネクタの高周波対応製品や、大電流対応、省スペース化を促進



0.3mmピッチ  
基板対基板コネクタ



急速充電大電流対応  
基板対基板コネクタ

### 基地局

- ▶ 国内基地局メーカー向けが立上り、光インターフェースコネクタやミリ波同軸コネクタなどの新製品の売上が19年度に拡大
- ▶ 通信エリア拡大にともなう基地局の増加に向けて採用獲得を促進



光インターフェースコネクタ



内装同軸コネクタ



ファンドッキング用コネクタ



電源用  
耐環境丸型コネクタ



## CASEを中心とした自動車市場への注力

### ADAS/Connected

#### ▶ ADAS

- ▶ カメラ用  
国内メーカーを中心に展開中

#### ▶ Connected

- ▶ 国内メーカーのマルチメディア（カーナビ）において、
  - ・ アンテナ接続同軸コネクタ
  - ・ 車内ネットワーク用イーサネットコネクタ
  - ・ 画像伝送用高速伝送コネクタ
  - ・ 車室内USB などの採用が拡大



車載カメラ用コネクタ



高速伝送用HSD互換



大電流・高電圧コネクタ



EV急速充電用 欧州コンボタイプ



エアバッグ用スクイブコネクタ

### EV/他

#### ▶ EV向け大電流・高電圧コネクタ

- ▶ 欧州カーメーカー向けに量産をスタート  
欧州や日系顧客での採用拡大を図る

#### ▶ EV充電用プラグ

- ▶ 欧州市場向け新製品を投入、売上が拡大

#### ▶ エアバッグ用スクイブコネクタ

- ▶ 欧州カーメーカーに加え北米カーメーカーでも採用と採用顧客が拡大

**Technology to Inspire Innovation**

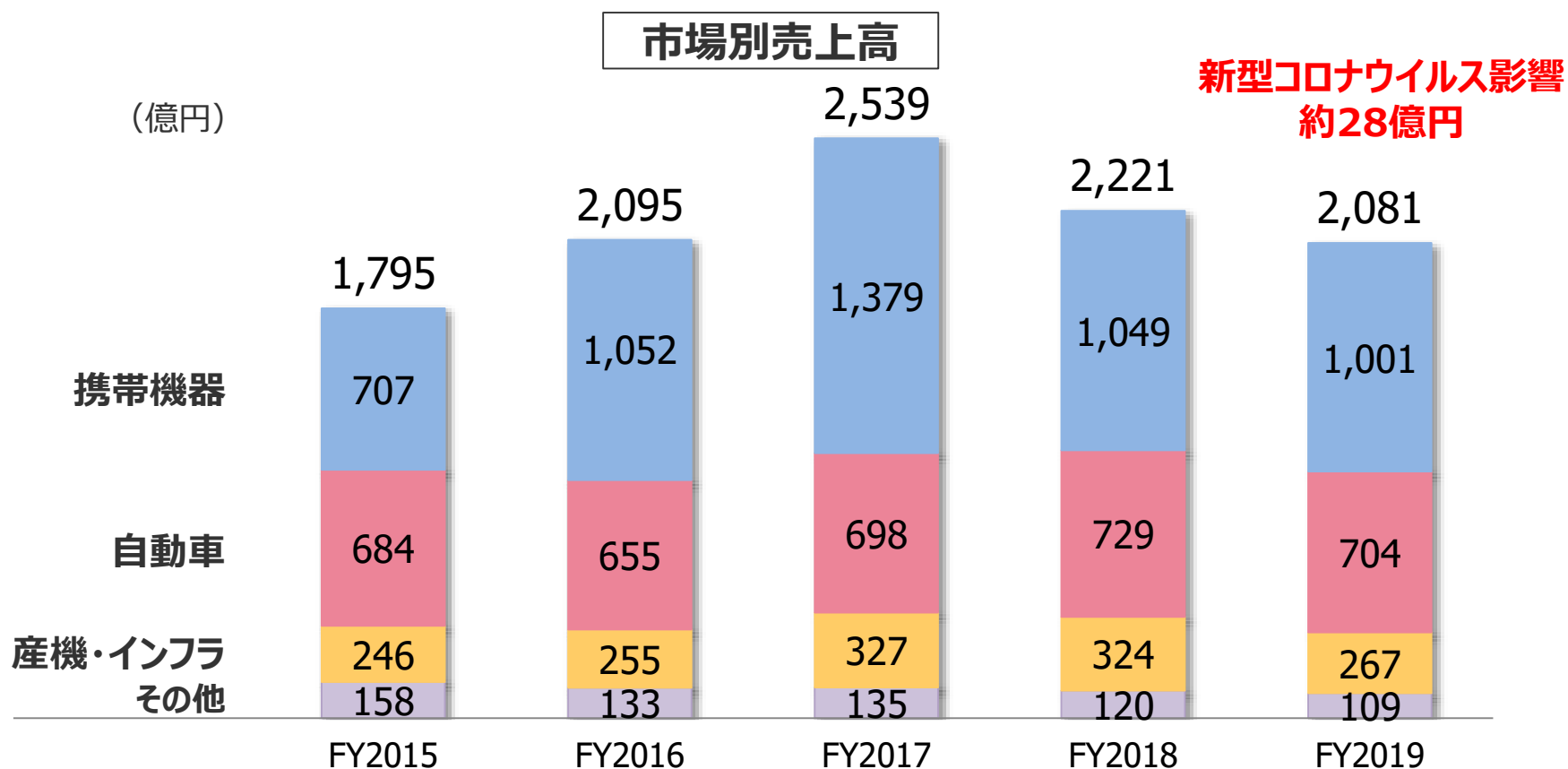


**JAE**



# [参考] 全社市場別売上 [過去5年間推移]

- ▶ 携帯機器 2017年度をピークに拡大した外部調達品を多く含む特定製品が減少
- ▶ 自動車 日系、欧州顧客ともに19年度は世界的な自動車販売の不振により停滞
- ▶ 産機・インフラ 18年度後半からの国内外最終需要の低迷が継続し回復に遅れ



## ▶ 生産への影響

- JAE無錫（コネクタ）、JAE呉江（コネクタ/UIS/航機）  
春節休暇より2月9日まで操業停止。2月10日操業再開
- JAEフィリピン（主に自動車向けコネクタ、ケーブルハーネス）  
3月17日より操業停止
- 一部部材の入手遅れ発生

## ▶ 需要面の影響

- 2月以降、中国内の顧客生産拠点の操業停止などにより、  
携帯機器向けを中心に所要が減少

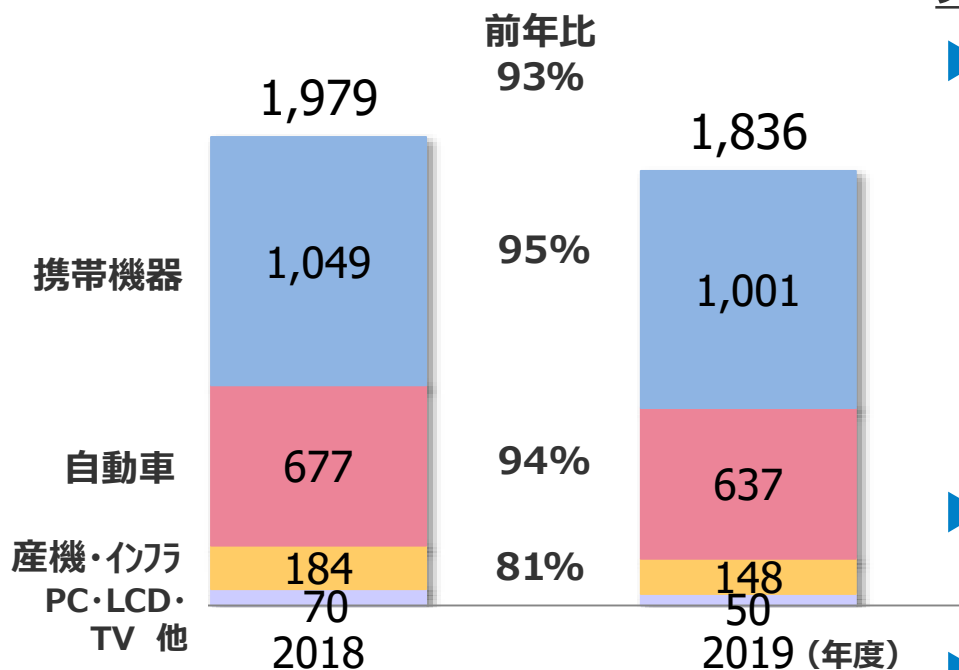
2019年度（第4四半期）業績への影響額

売上高 約28億円 営業利益 約7億円

# [参考] コネクタ事業 [年間業績]

(億円)

## 市場別売上高

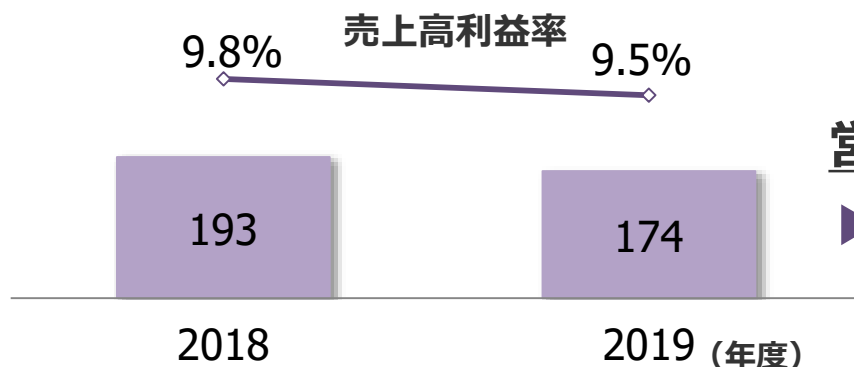


**売上高：前年比 93%**

- ▶ **携帯機器**
  - 北米顧客向けは堅調に推移
  - 中国スマホ顧客向けでシェアが増加
  - USB Type-C™「DX07シリーズ」は前年並み
  - 外部購入品を組合せた製品は減少
- ▶ **自動車**
  - 国内、海外顧客ともに需要が減少
- ▶ **産機・インフラ**
  - 国内FA市場を中心に需要減少が継続

(億円)

## セグメント利益

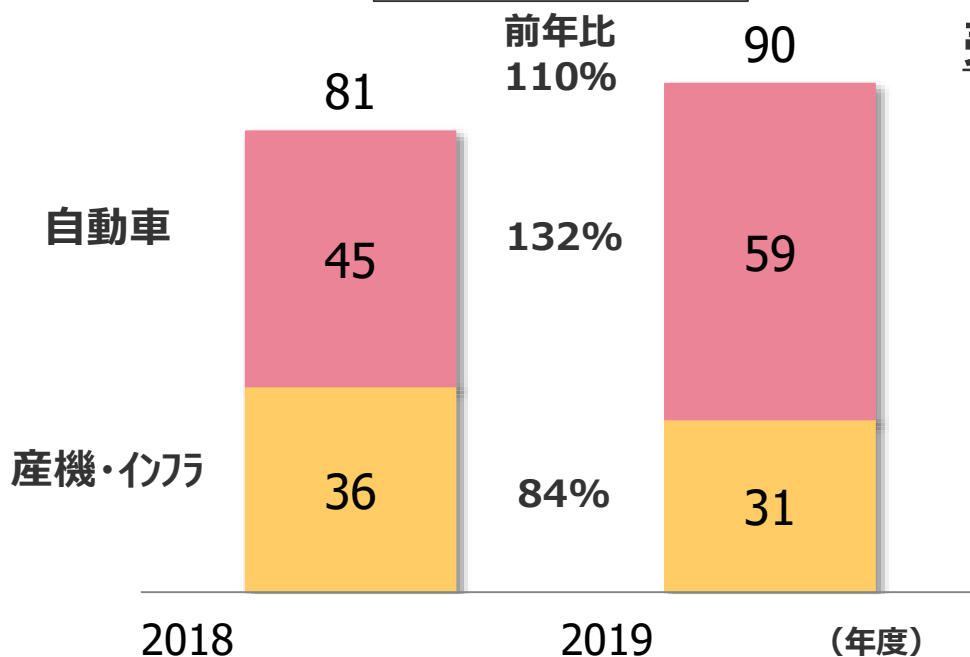


**営業利益：前年比 ▲19億円**

- ▶ **減収影響により減益**

(億円)

## 市場別売上高

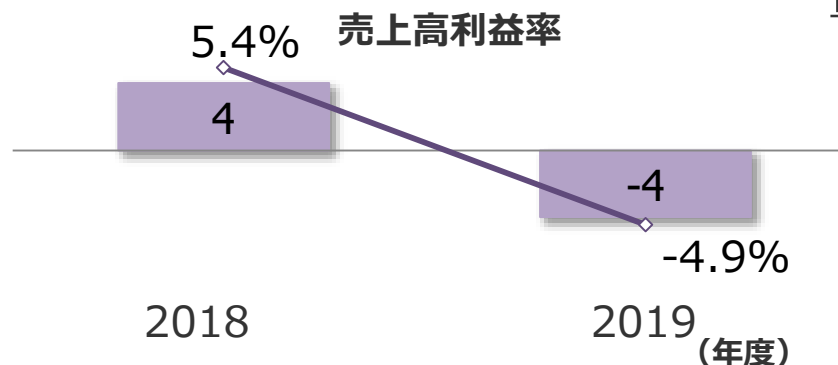


**売上高：前年比 110%**

- ▶ 自動車（車載タッチパネル）  
新製品（フィルムセンサ）の採用  
モデル増にともない、大幅増
- ▶ 産機・インフラ  
市場低迷が継続し前年比減

(億円)

## セグメント利益



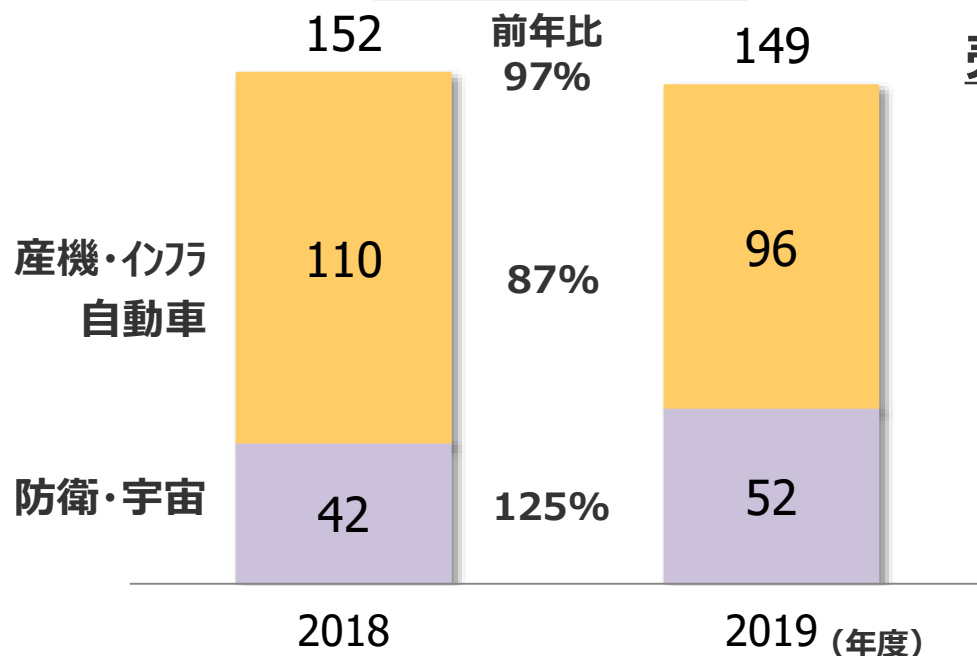
**営業利益：前年比 ▲9億円**

- ▶ 車載タッチパネル新製品立上げに  
ともなうコスト改善の遅れ、および  
産機・インフラ向け売上の減少により  
収益が悪化

# [参考] 航機事業 [年間業績]

(億円)

## 市場別売上高

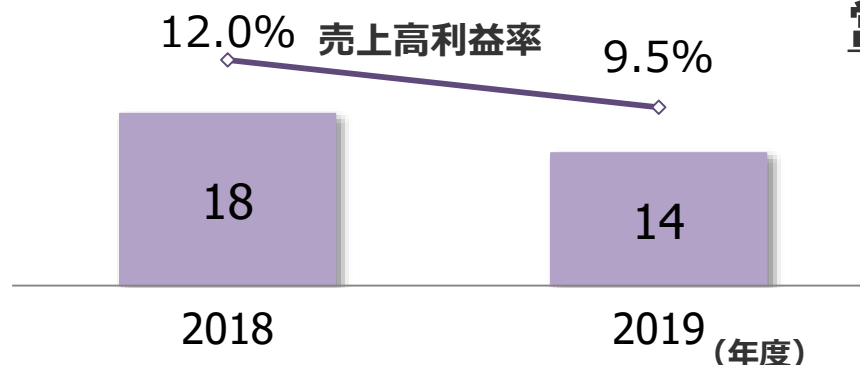


**売上高：前年比 97%**

- ▶ **産機・インフラ・自動車**  
下期以降、油田掘削向けセンサの需要が低迷し、売上が減少
- ▶ **防衛・宇宙**  
前年度の案件端境期から、例年並みの水準に回復

(億円)

## セグメント利益



**営業利益：前年比 ▲4億円**

- ▶ **油田掘削向けセンサの売上減**  
が大きく影響し、利益率が低下

## プレスリリース

### 「Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2020」を受賞

当社は、世界的な情報サービス企業であるクラリベイト・アナリティクス社が選定する、世界で最も革新的な企業・研究機関100社「Derwent Top 100 グローバル・イノベーター2020」に2年連続で選出されました。

「Derwent Top 100 グローバル・イノベーター」は、クラリベイト・アナリティクス社が保有する特許データベースを基に、知財・特許動向を独自の基準で分析し、優れた研究開発活動、知的財産管理を行っている世界の企業や機関上位100社を選出したものです。



## お知らせ

### 航空電子技報 No.42 (2020.3) を当社ホームページに掲載しました

<https://www.jae.com/corporate/rd/tech-report/>



## ウェアラブル向けコネクタ

### スマートテキスタイル対応コネクタ「RK01シリーズ」を販売開始

衣服型のウェアラブル機器に使用されるスマートテキスタイル向けに、洗濯に対応したコネクタ「RK01シリーズ」を開発し、販売を開始致しました。

複数極数の場合でも1アクションで容易にコネクタ着脱が可能なことに加え、スナップボタンタイプを採用することで、扱いやすいユーザーフレンドリーなコネクタとなっています。

コンタクトの接触面積を最適化することで高い接触信頼性を実現し、心電、筋電、呼吸、生体インピーダンス、モーションセンシングなどの安定した測定が可能となっています。





### <注意事項>

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下JAEと総称します）の計画、戦略および業績見通し・目標は2020年4月24日現在の予測・目標であって、リスクや不確定な要素を含んでおります。

本資料に記載されている目標は予想ではなく、将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものではありません。むしろ、経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績は、様々な要因により、見通し・目標等と大きく異なる結果となりうることを予めご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としてはJAEの事業領域を取り巻く日本・欧米・アジア等の政治・経済情勢、市場におけるJAE製品（リフト製品を含む）に対する需要変動、競争激化による価格下落圧力、および競合各社に打克ち供給し続ける能力、海外市場における事業拡大能力、事業活動に関する法規の変更やその不透明さ、潜在的な法的責任、為替レートなどがありますが、これら以外にも様々な要因が有り得ます。世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷などにより、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。将来予測に関する記述は、その日現在のものであることをご承知おきください。

新たなリスクや不確定要因は随時発生することが明らかですが、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、リスクや不確定要因がある為、将来予測に関して記述されている内容が実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することの無きようお願いいたします。